

2019年1月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

1月2日【CUBADEBATE】

“キューバは史上2回目の最底乳児死亡率を達成”

11年連続でキューバの乳児死亡率が5を下回っている。キューバは2018年に2回目の1000人出生当たり4.0人という最小の乳児死亡率を達成した。前年の乳児死亡率は4.044であったが、2018年は0.081低下し乳児死亡率は3.963となった。2018年の出生数は11万6320人で2017年に比較すると1349人増加。生後1年以内に461人死亡したが、前年に比べ4人死亡数が減少した。これがどの程度の素晴らしい数値であるかを示すと、1970年の乳児死亡数は9173人、乳児死亡率は38.7であった。この成果は家庭医と看護師プログラムによる活動によるものと評価されている。また地域医学遺伝国家プログラムによる先天性欠損症や遺伝疾患の診断、マネージメント、予防の推進により6年連続先天性欠損症による乳児死亡率が1未満を維持でき、2018年は0.8であった。

1月3日【CUBADEBATE】

“多くのブラジル人がキューバ人医師がいなくなると健康状態が悪化すると考えている”

1月3日に発表された調査結果によるとブラジル人の多くがキューバが“More Doctors”プログラムを放棄した後、ブラジルの医療が悪化すると考えていることが判明。調査結果によると49%がキューバ人医師出国後医療が悪化すると考えており、38%が医療状況は改善すると考えていた。8%が医療状況は現状のままと考え、5%の回答者が回答を保留した。

1月12日【CUBANET】

“ベネズエラはブラジルを出国した2000人の医師の新しい目的地に”

「循環器専門医、麻酔科医、その他の専門医がベネズエラの健康システムの強化のためにキューバからやってくる」とベネズエラのマドゥーロ大統領は発表した。

主に医療分野での専門的な職業サービスの輸出は、キューバ政権にとって重要な収入源であり、ベネズエラの場合石油を入手できる。

1月20日【CUBADEBATE】

“キューバで最初のソフト・ジェルカプセル工場が設立”

BioCubaFarma グループの国立科学研究センター（CNIC）のソフトカプセル工場が19日ハバナで設立された。設立式典には、評議会副議長や閣僚、中国大使が参加した。Hubei Cuba-China Pharmaceutical Ltd と CNIC および科学技術革新機構 Sierra Maestra de Cuba

との提携によるこの工場では、1時間に4万5千カプセル、年間2億カプセルを生産するという。主な製品は前立腺肥大症に対するパルメックスが予定されている。

1月30日【CUBANET】

“大型竜巻によりハバナで579棟の家屋が全壊”

1月27日の日曜日にキューバの首都ハバナの5つの地区を最大瞬間風速が80m以上の竜巻が直撃した。竜巻により4人が死亡、195人が負傷した。約5000人が避難生活を余儀なくされている。現在も70人以上の負傷者が入院しており、そのうち4人は重症である。被害を被った家屋は当初1238棟と言われていたが、現在1900棟以上と言われており、579棟の家屋は全壊した。